

日本医療薬学会 第4回臨床研究セミナー 開催報告書

臨床研究推進委員会 前委員長 矢野育子

第4回臨床研究セミナー『臨床研究を着想し、発表しよう』を2024年4月14日(日)13:00-17:00に、ハイブリッド開催しました(現地会場:大崎ブライトコアホール)。今回は、研究の着想に加えて、種々の研究手法と研究をまとめる際に気をつけるべき点についても考えていただけるような企画としました。

前半は、特別講演1として、奥田千恵子先生(横浜薬科大学・客員教授)から「日常業務を臨床研究へと発展させるにはーその有意差、意味ありますか?ー」として、薬剤師による新たな取り組みの前後比較のような探索的研究では、記述統計で十分価値があり、無理にP値を求めるべきでないこと等について示唆に富んだお話をいただきました。また、特別講演2として菊地真実先生(帝京平成大学薬学部・教授)から「質的研究とは?ー数値化されていないデータをどう扱うのかー」として、量的研究と質的研究との関係、リサーチクエスションに基づく研究デザインの重要性、質的研究における分析法等についてご講演いただきました。

後半のシンポジウムでは、「医薬品適正使用のためのエビデンスの創出～私の実践例:苦労と工夫～」をテーマに、小林星太先生、山田峻史先生、白石ちひろ先生、鈴木亮平先生の4名からご自身の経験を踏まえた研究事例とその苦労・工夫についてお話いただきました。参加者からのアンケートでも若い先生方の熱い想いが伺えて薬剤師の明るい未来や可能性を実感することができた、一步を踏み出すことが大事とわかった等のご意見をいただきました。

セミナーには283名の事前登録があり、会場にも関係者を含めて50名弱の参加があり、会場やWEBからの質問も多く活気のあるセミナーとなりました。終了後の参加者からのアンケート結果では、約40%は過去の本セミナーの参加者で、病院薬剤師が80%、薬局薬剤師が10%でした。参加者の年代としては40代が最も多く、30代、50代、20代と続き、今後もハイブリッドで年度初めの開催を希望する意見が多数でした。

最後になりましたが、ご講演いただきました講師の先生方、企画や当日の運営にご協力いただきました石井前副会頭及び臨床研究推進委員会前委員、医療薬学会事務局の皆様には感謝申し上げます。本セミナーのさらなる発展を祈念し、次期の委員会にバトンをお渡しさせていただきます。